

時局に思う



日本遺族会顧問
参議院議員

水落敏栄

ご遺族の皆様には、お元気でお過ごしのことと拝察いたします。

先月、天皇皇后両陛下はパラオ共和国を訪問され、激戦地ペリリニュー島の西太平洋戦没者の碑に

おいて、日本から持参された白菊を献花され御霊の冥福を祈られました。

出発前には両陛下とも体調を崩されたという報道があり、二日間
の過密日程に加え、三十度を超す
南洋の気候は大きなご負担であつ
たことは否めませんが、慰霊に対
しての強いご信念には、誠に感謝
に堪えません。

陛下はパラオ出発の前に「太平
洋に浮かぶ美しい島々で、このよ
うな悲しい歴史があつたことを、
決して忘れてはならない」と述べ
られ、戦争の風化を危惧しておら
れます。

戦後七十年、国民の八割が戦争
を知らない世代が占める今日、戦
争は風化され、平和で豊かな暮ら

しを当たり前として受け止める風
潮があります。

だからこそ戦争で悲惨な体験を
した遺族が「戦争体験」を語り、
二度と私たちのような遺族を作ら
ないという平和の訴えは強く心に
響くと思います。故に遺族会は「平
和の語り部」を続けなければなり
ません。その一歩として家庭から
始めることが大切です。

陛下は、国民が忘れてはならな
い日として六月二十三日「沖縄戦
終結の日」八月六日、九日「広島・
長崎への原爆投下の日」そして、
八月十五日「終戦の日」を挙げら
れ、毎年平和の祈りを捧げておら
れます。家庭の中で、こうした教
育をすることで、平和に対する心
は育まれると思います。

「恒久平和な社会の実現」は言う
までもなく簡単ではありません。
しかし、平和な社会を作るには、
法律や社会基盤を整えることより
も、一番大切なのは、国民お一人
お一人の意識の持ち方、すなわち
教育にあると考えます。それは一
朝一夕には目に見えた成果は上げ
られないことでしょう。しかし、
心にまいた平和の種は、日々の積
み重ねにより、確実に花を咲かせ
確固たる信念を育むと信じていま
す。

私は、全国のご遺族代表として
国会にお送りいただいた重責を胸
に刻み、遺族の声を国政に届け、
平和の灯を守り抜く覚悟でござい
ますので、皆様には一層のご指導、
ご支援を切にお願いいたします。